

NEWS LETTER

エジプト・アラブ共和国
特別活動を中心とした
日本式教育モデル発展・普及プロジェクト



ニュースレター始めます！

このニュースレターでは、エジプト・アラブ共和国で国際協力機構(JICA)の技術協力事業として実施されている、「特別活動を中心とした日本式教育モデル発展・普及プロジェクト」で行われている様々な活動を紹介していきます。

第1号では、本プロジェクトの前身である、「学びの質向上のための環境整備プロジェクト」より導入を支援している、エジプトの特別活動のご紹介と、エジプトの冬休み期間中に行われた3つの研修についてご紹介します。

第1号の記事

特別活動って
どんな活動？

これまでの
取り組み

エジプト国内研修

特別活動って どんな活動？

特別活動（特活）とは、日本の学校教育の中で、子どもたちの自治的な能力や自主的な態度を育て、学力向上の基盤に必要な人間関係を築くなど、子どもの成長に欠かせない教育活動のことを指します。

特活を通じて育成が期待される資質・能力には「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点があります。

日本では、「学級活動」「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」の大きく4つの内容で構成されていますが、エジプトでは、まずは「学級活動」を中心とした、学級会、日直、朝の会、帰りの会、掃除などの活動を取り入れて、実践されています。



学級会



掃除



学級指導

これまでの取り組み

このプロジェクトの前身「学びの質向上のための環境整備プロジェクト」では、学級活動を中心としたエジプト版特活に、職員会議などの日本の学校運営上の特徴、そして幼稚園での遊びを中心とした活動を加えた、日本式教育のモデルを、12校の普通の公立学校（どの学校より先駆けて開始したことからパイオニア校と呼ばれています）と、エジプト全土に新たに開校した48校のエジプト日本学校へ導入する支援をしてきました。

日本式教育のモデルの導入と指導は、2016に設立したエジプト国教育・技術教育省事業管理部が、各県に配置する約90人のエジプト人の指導員が担当しています。

他にも、優秀な指導員の育成や認定を試行したり、特活に加え、学校運営と幼稚園での活動についても、教員ガイドの開発を行うなど、日本式教育導入と実施に関わる様々な取り組みを行ってきました。

その結果、パイオニア校からは、日本式教育を取り入れたことで、教員からは「児童が協力的になった」、児童からは「学校が前より好きになった！」などの声が聞かれ、校長からも「清潔意識の向上や、時間厳守、早起き、自主的に学校行事を考えるなど、児童の態度面、行動面において大きな変化が見られた」など嬉しい声が上がっています。



EGYPTIAN JAPANESE SCHOOLS
المدارس المصرية اليابانية

日本式教育のモデル実践校

「エジプト日本学校(Egyptian Japanese School)」の開校



2018年度に計35校のエジプト日本学校が開校し、2021年にはエジプト全土に広がり、48校に増えました。現在、約9,000人の幼児・児童がこれらの学校で学んでいます。新しく建設された学校は、広い運動場や1人1つの机・椅子など、校舎・備品にも日本の学校の特徴が取り入れられています。今後、そうした新規校が更に増える予定もあり、既存の公立学校へのモデル導入にも取り組む計画です。

エジプト 国内研修

エジプトで特活を推進する、エジプト国教育・技術教育省事業管理部 (PMU) では、エジプトの学期の間の冬休みを利用して、エジプト日本学校に関わる全ての職員に向けて様々な研修を提供しています。研修の単位は、大小様々で、学校単位で行うものから全国レベルのものまで実施しています。



2022年2月4日から18日に行われた研修は、研修施設であるEducation Cityで、3つの対象者に分けて実施しました。

- 1、各学校教員（小学校、幼稚園の様々な専門分野）（合計約275名）
- 2、校長および副校長（90名）
- 3、エジプト版特活の指導員（100名）

この研修の主な目的は、学校職員、学校経営者、特活指導員の能力の質を高めること、学校が直面している主な課題に取り組むこと、そして、それぞれの研修対象者の視点を考慮し、小学校高学年向けのエジプトの特別活動、幼稚園の行事、授業研究の新しい要素を各学校ごとに導入することです。

具体的な研修として、以下の2つを実施しました。

- 1、ICT研修（対象：ICTおよび事務職の教員）（約65名）
- 2、健康・衛生・感染症対策（対象：校長・副校長）（約65名）

各研修の内容を、対象者ごとにご紹介していきます。



教員研修

2022年2月4日～6日(2日間)

小学校教員向け研修

この研修では、教員の能力の質を高めることを目的に、特活を実施する際に教員が直面している現在の課題の解決に取り組みました。

特活を実施する上で、具体的にどのような課題に直面しているのでしょうか？

課題の一つに、学級会を実施する際、学級会の目的や話し合いの柱を反映したタイトルを決めることができないというものがありません。ここでは、タイトルの決め方、柱、生徒にとって魅力的なものにするためのヒントなどを紹介しました。

このように、研修では教員同士が、教室での指導で起こった課題の解決に取り組み、課題に関する説明や体験談の発表を通じ、各学校や生徒の状況に応じた良い実践や新しい実践を教員同士で共有することができました。

さらに、「小学校高学年向けのエジプトの特別活動の教員ガイド」を用いた活

動紹介では、授業での学級会の質を高めること、授業での指示、学校行事など、4年生の教員が「小学校高学年向けのエジプトの特別活動」を導入するための道しるべとなるような研修が行われました。

幼稚園教員向け研修

小学校教員向けと同様に、幼稚園教員が直面している課題や好事例についての共有や、課題に取り組むための提案、自由あそびと計画あそびの違いについてのワークショップ、そしてグループ発表が行われました。

また、「幼稚園の遊びを通じた学び」の教師ガイドの改定箇所である、幼稚園の行事、教科と遊びの関係、学年の話し合いや活動の準備、おたより帳や連絡網の活用、年間・月間活動計画など、新しい部分を紹介しました。

校長・副校長研修

2022年2月12日～14日
(2日間)



この研修では、校長・副校長が「小学校高学年向けのエジプトの特別活動」を、①教員や児童を支援・指導できるようになる、②保護者や地域と連携できるように活動の理念や目標を深く理解する、ことを目的に行われました。

グループディスカッションを通しチームワークを養い、授業研究による教師の能力の向上、学校職員が仕事の効率を上げる仕組み、保護者のボランティア活動による学校支援、また、生徒の登校意欲を高める工夫をした朝の出迎えなどについて、さまざまなアイデアや実践例が紹介され議論されました。

さらに、会議（教員朝礼、教員終礼、チームミーティング、教科、学級懇談会）を活性化するための計画や、学級経営についても話し合いました。

特に学級経営は、学校の管理職が教科の授業をどのように観察し支援すべきかかに焦点をあて議論されました。

また、保健衛生についての特別講義が行われ、特活実施のための基本的な要件が提示されました。

指導員研修

2022年2月13日～16日
(3日間)



エジプト版特活の指導員（Tokkatsu Officer）研修では、研修の前に、指導員に向けて事前課題が設けられました。内容は①特活をうまく実施するための課題の提示、②特活を実施する際に先生や生徒が実践している良い事例の提示、③特活の効率を上げるための推奨事項などの考えをまとめるというものです。

研修1日目は、事前にまとめた課題を元にグループで話し合い、各グループで賛同を得られた内容を参加者全員の前で発表しました。その後、研究開発チームがコメントとまとめを行いました。その他、学校への提案や教員ガイドの修正を提案するための最も重要な推奨事項を述べました。

2日目には、小学校高学年向けのエジプトの特活、幼稚園行事、授業研究の進行手順、学校モニタリング時の新しい要素が、指導員の主な目的に合致した内容で発表されました。

最終日には、指導員による学校でのモニタリングに関する課題や提案、ルーブリック、エピコレクト（指導員によるモニタリングレポートのアップロードに使用するアプリケーション）等に関する議論が行われました。

ニュースレター第1号いかがでしたか？今後も「特別活動を中心とした日本式教育モデル発展・普及プロジェクト」の様々な取り組みを、ご紹介していきます。エジプトの学校は、学期が終わり夏休みに入りました。夏休み期間は、教員向け研修や、教員ガイドの改訂などを行い、新学期に向けての準備期間となります。次の号でもエジプトからたくさんのお知らせする予定です。

問い合わせ先

JICA技術協力プロジェクトチーム
holistic_edu@padeco.co.jp